

事務連絡
令和2年6月5日

報道関係の皆様へ

鳥取県自転車競技連盟
事務局 河田拓也

鳥取県自転車競技選手権大会の情報提供について

今大会は、鳥取県自転車競技選手権大会として実施します。永年、県高校総体と併催で開催してきました。県内の競技登録者、中学生から社会人まで、幅広く参加し、日頃、鍛錬した実力を発揮する大会です。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、3月の選抜大会の中止に続き、夏の全国高校総体が中止になり、それを受け、4月に県高校総体も中止に至りました。現在は、10月開催の鹿児島国体も開催されるかどうか分からない状況です。その中、自転車競技に取り組む高校生にとっては、多くの大会が中止・延期になり、活躍の場所が失われてしまい、本当に残念な状況です。

本連盟としては、何とか、成果発揮の場所をつくりたい、と模索する中、来年開催されるワールドマスターズゲームズ2021 関西の開催準備のために、この競技場の走路改修が6月から実施計画されていることから、開催できるタイミングがこの日程しかないとの判断で、県教委、県高体連、県スポーツ協会と協議し、高校生が参加できる大会として、なおかつ県高校総体代替大会として、特例措置として、県内最初に開催することにしました。

参加する選手の中には、昨年2年生ながら全国大会で活躍した選手たちが複数おり、今年も全国大会でその活躍が期待されていた選手がいます。また、自転車での大学進学を考えているものもいます。

また、国体成年のメンバーでもあり、倉西高出身の中央大学に在籍する2人（保田、青木 当時高校3年時に全国優勝、入賞経験者）や、同じく倉西高卒で、大学で活躍した、現在は社会人の金田聡士、松下綾馬の2人も、この大会に一般で参加します。

彼らは国体強化選手のメンバーで、3～5月コロナ禍の中、高校生たちと週末に競技場でずっと一緒に練習してきた先輩たちであり、鹿児島国体の開催を祈りながら、練習を続けてきました。

本日は、そうした選手たちが鍛錬した力を発揮すること、また新型コロナ感染予防の対策をしっかり行い、安全な大会運営になることを目指して開催いたします。

*注目選手

美甘 星次郎（倉総産） 沖縄総体ロード優勝
道祖尾大輝（倉西） 沖縄総体スプリント7位
池田 倫之（鳥西） 茨城国体ケイリン7位入賞

*令和元年度（2020.3）全国選拔出場予定だった選手

男子 池田、今井、道祖尾、美甘、荒金、入澤、杉本、林原 8名
女子 田口、吉田、寺田、生駒 4名

以下、大会展望 (6/5 日本海新聞にも掲載)

コロナ禍で活動が制限される中、シーズンに入って3月以降、3か月間、大会の開催を待ちわびながら、自主参加の競技場練習やロード練習でひたすら練習に励んできた。

全国大会が中止になり、モチベーションの維持が大変だったが、3年間の集大成として、自分が納得いく形の区切りとなるよう鍛錬してきた。全国大会があれば間違いなく、複数名の選手が入賞していただろうと推測する。

レースは、男子は昨年度全国大会で入賞実績のある3名の選手がレースの中心となる。まず、沖縄総体ロード優勝した美甘星次郎(倉総産)は、IPやポイントレースの中距離種目で冬場につけた実力で他を圧倒する走りを見せたい。次いで、同じく沖縄総体でスプリント7位の道祖尾大輝(倉西)、そして、茨城国体でケイリン7位入賞した池田倫之(鳥西)。両名は、お互いライバル関係で、昨年から全国大会の入賞経験を通して、さらなるレベルアップを目指し実力をつけてきた。スプリント、1kmTT、では全国トップレベルの力をつけており、県記録更新の好タイムを期待したい。彼らに続くのは、この冬急成長の今井純志(鳥東)、入澤魁星(倉総産)、釜田佳典(倉総産)だ。入澤は、瞬発力を生かし、ダッシュ力に磨きがかかった。今井、釜田はまだ全国大会の経験はないが、ベスト記録が伸びており、上位3名を脅かす存在だ。

女子では、倉西2年の田口祥子、吉田芙美加は、昨年秋以降から力をつけてきた。田口は500mTT、吉田は2kmIPとそれぞれ持ち味を発揮して、昨年全国入賞した先輩たち(宮本、福田)を上回る好タイムを期待したい。

※高校3年生の大会応援プロジェクト

特に、高校3年生最後の大会を盛り上げる激励のメッセージボード作成。来場された方は誰でも参加してよいです。会場に来れない県外の先輩たちもSNS等でメッセージを送ってもらい掲示します。

※新型コロナウイルス感染予防のための準備

- 日本スポーツ協会および鳥取県から示されているイベント開催の基準を遵守し、感染防止対策を講じた上で、参加者全員がその取り組みを遵守した行動をする。
- 高校生については、特に県教育委員会および県高体連から指示されている大会参加および大会実施におけるガイドラインに沿って、独自の感染予防のための具体的方策を作成し、(競技専門部ガイドライン)選手、顧問に健康管理表および体調チェックシートの作成と提出をしていただく。
- 運営役員、保護者、報道関係者についても当日の体調チェックシートに記入いただく。

※参加校および参加選手数

鳥取西高校 1名(3年)、鳥取東高校 1名(3年)、倉吉東高校 1名(2年)
鳥取湖陵高校 6名(3年3名、2年1名、1年2名)
倉吉総産高校 17名(3年6名、2年7名、1年4名)
倉吉西高校 18名(3年2名、2年6名、1年10名) 以上44名
男女内訳:男子32名 女子12名、 学年内訳:3年13名 2年15名 1年16名

※大会参加者

※選手約60名(中・高・大学生、社会人)、学校関係10名、競技役員20名、観客40名
※視察者 県教育委員会、県スポーツ協会、県高体連、倉吉市